

**ライフパーク倉敷リニューアル**

**及び**

**新自然史博物館整備**

**基本方針**

令和5年3月

倉敷市教育委員会

---

---

# 目次

---

---

|                        |   |
|------------------------|---|
| I はじめに                 | 1 |
| II めざす姿(イメージ)          | 1 |
| III ライフパーク倉敷の概要        |   |
| (1) 経緯                 | 2 |
| (2) 立地・アクセス            | 2 |
| IV 自然史博物館の概要           | 3 |
| V ライフパーク倉敷と新自然史博物館     |   |
| (1) 全体図と位置図            | 4 |
| (2) 平面図と位置図            | 5 |
| (3) 法的条件               | 6 |
| VI ライフパーク倉敷リニューアルの整備方針 |   |
| (1) コンセプトと基本方針         | 7 |
| (2) 整備指針               | 7 |
| VII 新自然史博物館の整備方針       |   |
| (1) コンセプトと基本方針         | 8 |
| (2) 整備指針               | 8 |
| (3) 展示のコンセプトと基本方針      | 8 |
| (4) 展示の整備指針            | 8 |
| (5) 整備面積               | 9 |
| (6) 概算事業費              | 9 |
| VIII 整備スケジュール          |   |
| (1) これまでの経緯            | 9 |
| (2) 今後の予定              | 9 |

## I はじめに

「倉敷市公共施設等総合管理計画」（平成 28 年 6 月策定、令和 5 年 3 月改訂）に基づき、令和 4 年 3 月に策定された「倉敷市公共施設個別計画」において、自然史博物館は、ライフパーク倉敷に移転し、ライフパーク倉敷と機能を複合化した整備を検討する方針が示されている。

この方針を受けて、「ライフパーク倉敷」のリニューアルと、「新自然史博物館」整備の基本方針を示すものである。

## II めざす姿（イメージ）

市民学習センター・科学センター・埋蔵文化財センターに、自然史博物館が加わり

天空の世界から、地上の生き物、そして地底に眠る古代の遺物まで  
いにしえから今を、そして未来を生きる私たちへ

◎ ライフパーク倉敷は「**知の拠点**」としてリニューアルし

時空を超えて、あなたの「**知りたい**」に応えます！！

そして

◎ 新自然史博物館は「**知の拠点**」の一翼として

あなたに「**チカラ**」を届けます！！

チ 「**知**」 教養・文化の向上をめざす施設へ

カ 「**学**」 調査・研究の深化をめざす施設へ

ラ 「**楽**」 市民が集い憩うにぎわいの施設へ

### Ⅲ ライフパーク倉敷の概要

#### 1 経緯

ライフパーク倉敷は、新市(昭和42年に、旧倉敷市・児島市・玉島市が合併)発足20周年を記念して、総合的な社会教育施設として、平成5年4月24日に開館した。敷地面積53,117.32㎡、建築面積9,656㎡、延床面積14,339㎡の鉄筋コンクリート2階建、一部3階建となっている。

講座等の開催や施設提供を通じ生涯学習を支援する「市民学習センター」、視聴覚教材の製作、貸出等を行う「視聴覚センター」、教員研修、不登校児童生徒の適応指導や教育相談等を行う「教育センター」、科学・宇宙に触れ、子どもたちの科学するところを育てる「科学センター」、市内の埋蔵文化財を適切に保護・保存し、埋蔵文化財に対する関心を深める事業を行う「埋蔵文化財センター」の5センターからなる複合施設としてスタートした。

その後、視聴覚センターは、平成13年4月に、「情報学習センター」に、さらに、令和4年4月には、「教育ICT推進課」となり、現在は、1課4センターで運営している。

開館20周年となった平成25年8月には、国の登録有形文化財である旧倉敷天文台スライディンググループ観測室の寄贈を受けて敷地内へ移築、また、開館以来、大いに人気を博しているプラネタリウムは、平成31年3月に、星数1億個の世界最高水準の美しさを誇るプラネタリウムにリニューアルしている。

また、毎年8月には、各センターが協力し、「ライフパークの集い」を開催し、延べ1万人を超える方々が参加するなど、市民に親しまれている施設である。

ライフパーク倉敷の年間利用者数は、平成14年度の56万3千人をピークに、毎年約50万人程度で推移しており、開館28周年となった令和3年度末の延べ入館者数は1,338万人余に達している。

#### 2 立地・アクセス

JR山陽本線倉敷駅の南約9km、タクシーで25分、瀬戸中央自動車道・水島ICから車で約15分の距離に位置し、南側は市内最大規模の公園面積(347,000㎡)を誇る水島緑地福田公園に隣接している。

バスの場合、最寄りの「ライフパーク倉敷入口バス停」(下電バス・古城池線)下車徒歩1分、「ライフパーク倉敷西入口バス停」(下電バス・塩生線)下車徒歩20分、「二福小古城池高前バス停」(両備バス・吉岡線)下車徒歩20分の3路線がある。基本的には、マイカー利用が多く、一般駐車場約400台、バス専用駐車場10台を備えている。

## IV 自然史博物館の概要

昭和 57 年 10 月 19 日に策定された「自然史博物館基本構想」において、博物館は「倉敷とそれを取りまく地域の自然を探り、市民が自然を理解し、正しい自然観が得られるような場を提供すること」を目的として、次のような性格を持たせることとされた。

### ① 地域に根ざした博物館

岡山県南部の平野を形成し、文化を育てた母なる川、高梁川の流域と瀬戸内海の自然風土を自然史的に表し、市民が郷土の自然を愛し、自然に親しむ心が芽生える博物館。

### ② 特徴のある博物館

数多くの資料を有する昆虫、植物については、特に掘り下げた表現によって、自然のしくみの神秘さ、すばらしさを紹介するユニークな博物館。

### ③ 開かれた博物館

市民と共に歩み、市民に支えられたみんなの博物館。すべての人が楽しく観覧し、気楽に対話のできる博物館。

### ④ 学問に裏づけられた博物館

単なる展示を排し、研究と学問に裏づけられた常に前進する博物館。

また、展示については、テーマを「倉敷の自然とその背景」とし、次のような展示をめざすとされた。

① 倉敷は、高梁川と瀬戸内海を背景に発展し、恵まれた自然につつまれている。この自然のおいたちと今の姿を知り、ともに未来を考える展示をめざす。

② 市民が自然を知り、自然を愛し、それを保護し、ともに生存していく心が育まれるような展示をめざす。

施設は 3 階建延床面積 3,072.28 m<sup>2</sup>で整備され、昭和 58 年 11 月 3 日に開館した。その後、平成 5 年度には開館 10 周年を記念して、建物 1 階の 1 部に動くナウマンゾウ母子を展示し自然史博物館のエントランスとして整備した。

また、平成 14 年度から 17 年度にかけて、展示の大幅更新がなされ、背景が高梁川流域から岡山県全域に拡大された。

その後、収蔵品の増加に伴い平成 22 年度に自然史博物館の一部として大高仮収蔵庫 708.10 m<sup>2</sup>を設置している。

開館以来、資料収集保管事業、調査研究事業、展示事業、教育普及事業を 4 つの柱として、博物館を運営しており、年間の来館者数は 5 万人前後で推移しているほか、毎年 11 月に開催する自然史博物館まつりには、1 万人前後の来館がある。また、地学・生物標本等の資料の収集に努めた結果、令和 3 年度には収蔵資料が 100 万点を超えた。

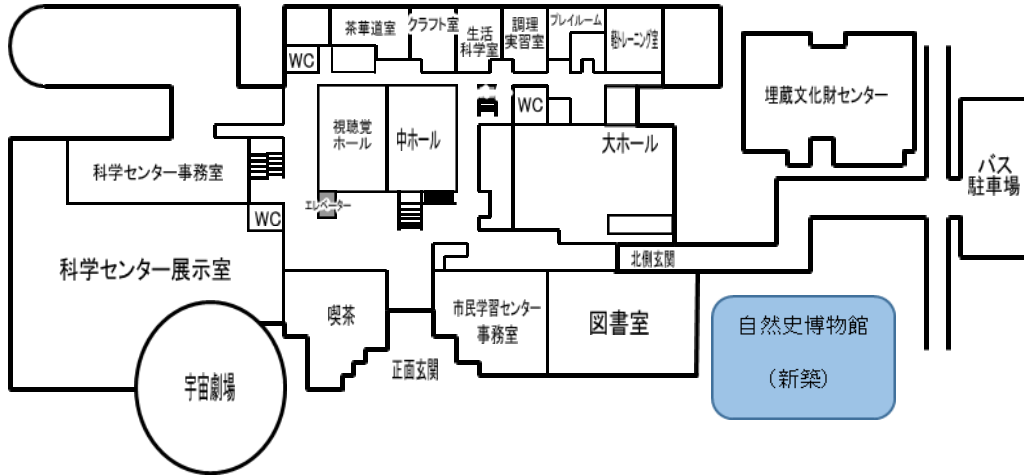
## V ライフパーク倉敷と新自然史博物館

### 1 全体図と位置図

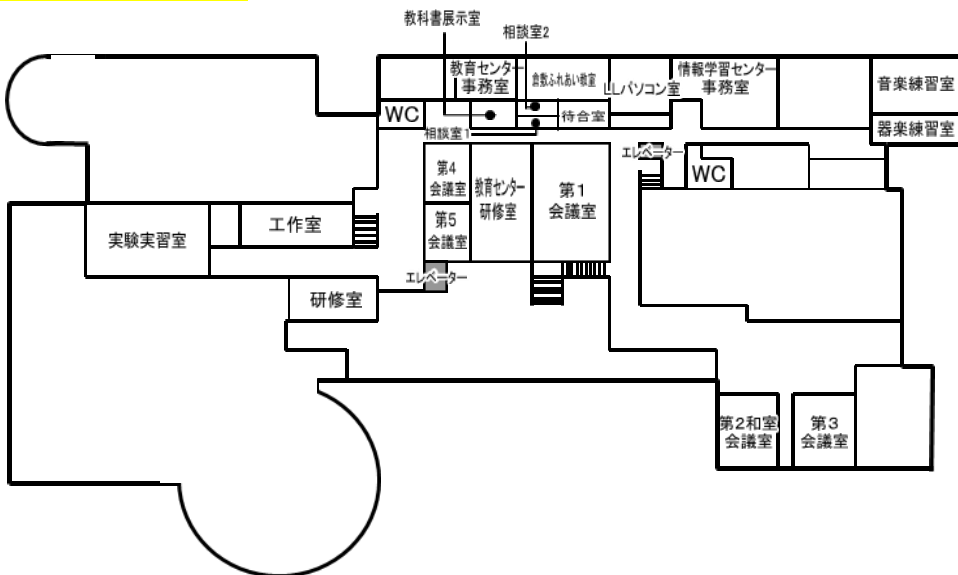


## 2 平面図と位置図

1F



2F



### 3 法的条件

| 項目              | 対象地域の状況     |
|-----------------|-------------|
| 用途区域            | 第一種低層住居専用地域 |
| 容積率／建ぺい率        | 80％／40％     |
| 防火／準防火区域指定      | 指定なし        |
| 景観計画区域          | 該当(住宅地景観)   |
| 倉敷市屋外広告物規制      | 第1種許可地域     |
| 立地適正化計画         | 区域外         |
| 宅地造成工事規制区域      | 該当          |
| 土砂災害警戒区域・特別警戒区域 | 該当なし        |



## VI ライフパーク倉敷リニューアルの整備方針（一部抜粋）

### 1 コンセプトと基本方針

#### （１）「知の拠点」の形成

科学センターを起点として、新自然史博物館、そして埋蔵文化財センターへと138億年前の宇宙、46億年前の地球の誕生から、40億年前の生命の誕生、そして600万年前の人類の誕生から今日に至るまでの壮大な時空絵巻をたどり、知り、学ぶ「知の拠点」として整備する。

#### （２）一体化

ライフパーク倉敷の敷地全体を俯瞰し、既存の市民学習センター、科学センター及び埋蔵文化財センターと、新しい自然史博物館を一体的に整備する。

#### （３）来館者数の増加

平成31年3月にリニューアルした世界最高水準を誇るプラネタリウムなどライフパークの既存施設と、新自然史博物館の魅力のコラボレーションにより、来館者の増加を図る。

### 2 整備指針

- （１） ライフパーク倉敷の敷地全体を俯瞰し、ロータリーや駐車場、植栽の再配置を行い、既存の市民学習センター、科学センター及び埋蔵文化財センターと、新自然史博物館を一体的に整備する。
- （２） ライフパーク倉敷の既存施設については、その一部を新自然史博物館としてどう整備するか、新たな共有スペースとして整備できないか、などについて検討する。

## Ⅶ 新自然史博物館の整備方針（一部抜粋）

### 1 コンセプトと基本方針

- (1) 「知」「学」「楽」のバランスがとれた博物館
- (2) 「知りたい」に応える博物館
- (3) 「学び」を深める博物館
- (4) 気楽に「楽しむ」博物館

### 2 整備指針

- (1) 自然について「知りたい」、「深く学びたい」、「楽しみたい」という様々なニーズに柔軟に対応する、バランスのとれた博物館として整備する。
- (2) 昭和57年10月に策定された「自然史博物館基本構想」は継続する。
- (3) 新自然史博物館の建設位置は、市民学習センター北出入口北側、現在のロータリー、障がい者駐車場及び自転車置場(解体)とし市民学習センターと接続する。

### 3 展示のコンセプトと基本方針

- (1) 利用者の視点に立った展示
- (2) 訪れるたびに新鮮な展示

### 4 展示の整備指針

- (1) 設立時の次の基本構想は継続する。  
「倉敷は、高梁川と瀬戸内海を背景に発展し、恵まれた自然につつまれている。この自然のおいたちと今の姿を知り、ともに未来を考える展示をめざす。市民が自然を知り、自然を愛し、それを保護し、ともに生存していく心が育まれるような展示をめざす。」
- (2) 展示室には、全長12.2m全高3.7mのティラノサウルス標本、また天井部分からは全長11.7m全幅2.0m全高3.0mのニタリクジラ全身骨格標本など、既存のストックを最大限活用して展示する

(3) 令和3年度に100万点を超えた収蔵品については、テーマや季節等に応じて最大限活用して展示する。

## 5 整備面積

新自然史博物館整備については、ライフパーク倉敷市民学習センター等既存施設の一部を、どの程度改修し、新自然史博物館としてどのように活用するかを検討したのちに、新館の整備面積を検討する。

## 6 概算事業費

整備面積を検討した後に、この基本計画の中で示すこととする。

# VIII 整備スケジュール

## 1 これまでの経緯

令和4年6月に、教育委員会7名、市長部局3名の職員からなる検討チームを設置し、自然史博物館とライフパーク倉敷の現状と課題、今後の方針について意見を求めている。

また、令和4年10月からは、来館者に対して、今後の自然史博物館像についてのアンケート調査を実施している。

## 2 今後の予定

この基本方針を基に、令和5年度中に基本計画を策定する。

